

新生!

再生!

ナニコし新しい!!

特集

新しい 長崎大学へ



よりよい学びの環境を目指して常に整備を進めている長崎大学。

平成27年度のスタートを機に、

昨年からの新築・改築を一挙紹介。

キャンパス外の長崎大学施設もご案内します。

施設担当から

まずは耐震化。そして
独立した研究スペース

長崎大学の施設整備事業は、マスタープランに沿って進められています。施設担当の山下敬彦副学長のお話です。

「二〇一〇年から三年かけて、キャンパスごとのマスタープランをたてました。建物の耐震化が最優先ですが、これに加え、教育や研究の機能を向上させるための整備が進んでいます。国立大学として百年使えるキャンパスという考え方を基本とし、長期計画のなかで統一感をもたせようとしています」。

長崎大学の場合、町なかにあつて敷地も限られていることもあり、建替えは容易ではありません。しかし、学生の学びの向上や研究の進展を第一に考え、ポイントを押さえた環境整備が着々と進んでいます。

「例えば、昨年度から歯学部本館を医歯薬学総合研究科棟にする改築を行っています。現在、増改築する建物の二十パーセントはオープンラボに当てています。企業との共同研究やプロジェクトでは知的財産の守秘義務の関係上、独立した研究スペースが必要とされているからです。また、附属図書館では蔵書の拡充はもちろん、学生の学習スペースの確保など、部局のニーズを汲みながら設計に反映させています」。

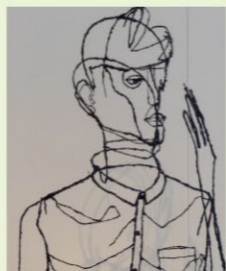
学内全体でいえば、グループワークしやすいオープンスペース、リフレッシュルームやトイレなどの共有スペースも増えています。

※オープンラボ / 研究者やチーム単位でスペースや部屋を借り、賃料を支払って使うスタイル。機材もすべて持ち込みとなります。

山下敬彦 副学長



木の質感を生かした明るい空間で、客席から見やすいようステージは少し高めです。



美術専攻の寺内亜衣さんの「Rough Sketch」。ワイヤーで作り、影の面白さを活かしました。

文教キャンパス

ART AND TECH EXHIBITION LAB

爽創館

教育学部美術・技術棟1階
展示情報・教育学部ホームページ
<http://www.edu.nagasaki-u.ac.jp/>

モニター2台、大型ディスプレイ4台など最新設備も完備。かなり先まで事前予約ができます。

文教キャンパス

文教スカイホール

グローバル教育・学生支援棟4階
座席数262席
利用は学生、大学関係者に限る(共催含む)
学生支援課
TEL.095-819-2071

平成二十五年秋に本格稼働し始めた新しいグローバル教育・学生支援棟。その四階に文教スカイホールがあります。文教キャンパスに国際シンポジウムの開催も可能な機能性の高いホールを、というニーズに応じてきた中規模ホールです。現在、学生や教職員がほぼ毎日のように利用しています。昨年は「新日中友好21世紀委員会」の意見交換会も行われました。講義はもちろんのこと、学会、シンポジウム、研究発表のほか、学生サークルの練習にも活用されています。

使い勝手のよい
中規模ホール



先生方の作品展の様子。

開館時間は企画により異なりますが、窓が大きく照明もあるので、外からでも鑑賞できます。



緑のなかの芸術空間で
学生のアートのふれる

文教キャンパスの南側は緑豊かな木立が続き、散策にもぴったり。このエリアに、音楽ホール「創楽堂」に続いて昨年オープンしたのが、このギャラリー。美術専攻の佐藤敬助教授のお話です。「二十七平方メートルと小ぶりですが、定期的に学生や教員の作品を展示しています。今後は教育学部全体の研究発表、附属中学の生徒の作品展示も考えています」。発表の場が増えたことで、学生のモチベーションアップにもつながっています。

共有空間

学生生活を快適にする
空間と文化施設



文教キャンパス

生協文教食堂

営業時間/8:15~19:45
(土曜・春・夏季、年末年始は変動あり)
長崎大学生協ホームページ
<http://kyushu.seikyoku.ne.jp/nu-coop/index.html>

明るい席が二五〇席増！
ランチタイムの大混雑も緩和

文教キャンパスの生協食堂といえば、お昼は行列必至、席確保もままならない状況が当たり前でした。そこで「席を増やして」という学生アンケートの声に応える形で昨年東側を増築し、二五〇席を増やし全体で一七二二席に。カウンター席も作り、一人でも気兼ねなく利用できるようになりました。また、バイキングコーナーを設置し、レジカウンターも増やしたことで昼時の混雑はだいぶ緩和されました。水浦龍夫副店長によれば、九州内の大学と連携した共通メニューのほか、独自展開のオリジナルメニューもあり、他大からの視察も多いのだそうです。「高校の先生や受験生の保護者からも好評をいただきました。食事をするだけでなく、ランチタイム以外ならば勉強にも使ってもらえます。陽の当たる席でリフレッシュできますよ。」



食事だけでなく勉強もここでできます。スイーツも充実しており、カフェ代わりに使うのもOK。



外にあったウッドデッキを増築部分の屋上にあげて、木々の緑が気持ちのよいテラスも誕生。



煮物や焼き物など「おふくろの味」メニューを意識したバイキングコーナー。



陽光の入る大きな窓を配した空間。カウンター席や2人テーブルもあり。

文教キャンパス

正門ロータリー



歩道の表示は、留学生にもわかりやすいようピクトサインを用いています。



人と車をブロックの色で分け、
歩行者優先のキャンパスが実現

文教キャンパスの正門を入ると目につく色とりどりのブロック。歩道と車の動線をしっかり分けて歩行者をキャンパスの奥へと誘導しており、ぐっと歩きやすくなりました。これは、キャンパスマスタープランに基づく正門と東門をつなぐ軸線の環境整備の一環で、歩行者の安全確保が目的です。約三万五千個のインターlockingブロックは、歩道部分、車道と歩道が交差する部分などで色使いを変えています。



ヨーロッパ最古の印刷史を誇るオランダの書籍だけに装丁も凝ってますね!

二年前にリニューアルした附属図書館中央図書館。その二階の貴重書閲覧室内に昨年五月にオープンしたのが日蘭文庫コアコレクション。ここには、日蘭交流関係図書を中心にオランダ語で書かれた本が約一八〇〇冊収められています。日蘭文庫は、オランダ商館関係文書のマイクロフィルムやオランダ大使であったフリース氏のコレクションも含まれます。実は、東京の日蘭学会が解散するにあたり、三年前にその蔵書を譲り受けたもので、オランダの図書がここまであるのは日本でもトップクラス。多文化社会学部オランダ特別コースの学生、オランダ人留学生だけでなく、広く日蘭交流の研究にも役立ちます。貴重書閲覧室は通常施設されており、文庫の閲覧はカウンターでの申込みが必要です。



百科事典、フェルメールなどの美術書、航海日誌からペーパーバックまで。

オランダ語の書籍が一八〇〇冊

文教キャンパス

附属図書館 日蘭文庫

長崎市文教町1-14
長崎附属図書館中央館
TEL.095-819-2200



学びと研究

学びやすい環境と
先端研究の推進

スキルスラボには、歯を削る処置などが確認できる最新機器が11台も!

大学病院の南に隣接する歯学部棟本館は、医歯薬学の総合的な機能を持った学習と研究の施設棟にリニューアル中です。四〜六階は主に歯学部、七階は主に薬学部、八階はオープンラボが先行して整備されています。歯学部臨床教育学の角忠輝教授のお話です。「歯学部の実習は、内容によって使う器具や設備が違いため、これまで学生は実習内容により、いくつものフロアを行き来していました。そこで学生の利便性を考え、今回の改修で実習室を一カ所に集約させました。実習機器は高価なので、そう頻繁に入れ替えられませんが、水平状態で実習できる歯科用実習機や、処置の様子がモニター画面で確認できるシミュレータなど、最新機器を揃えています。教員の手を映すカメラと複数のモニターも設置したので、より良い環境での学びと実習が実現しています」。



撮影時は春休みで学生がおらず、モデルは歯学部を卒業した研修医のみなさんにご協力いただきました。みんな口ぐちに「いいなあ! 最新設備で新入生がうらやましい」。



歯学部を中心とする実習室と 医歯薬学総合研究科の研究室

坂本キャンパス

歯学部棟本館

長崎大学病院隣接



リフレッシュコーナーのある1階、勉強に集中できる2階と機能を分けています。



リフレッシュコーナーでランチも可。



個別にパーテーションで区切った閲覧室。書棚には医療系書籍が診療科別にずらり。

先輩が後輩に教える姿も

中央館に続いて昨年五月にリニューアルした坂本キャンパスの医学分館。以前は書庫からあふれた本棚の間に席がある状態だったのが、書庫を倍増させて蔵書をスッキリ収納した結果、閲覧スペースが広くなりました。閲覧室には眺めのよいカウンター席も登場(今号の表紙はこちら)。部活動が盛んな医学部では、先輩が後輩の勉強をみる伝統があり、かつてはパソコンやコピー機の周りで立ったまま相談する学生もいました。しかし今では一階に会話ができるラーニングコモンズができ、大いに活用されています。二階の近代医学資料展示室もレイアウトと展示物の一部が変わり、被爆時にガラスの破片で傷ついた書籍なども展示されています。

坂本キャンパス

附属図書館 医学分館

長崎市坂本1-12-4
附属図書館医学分館
TEL.095-819-7013

学内環境の改善はアンケートがカギ

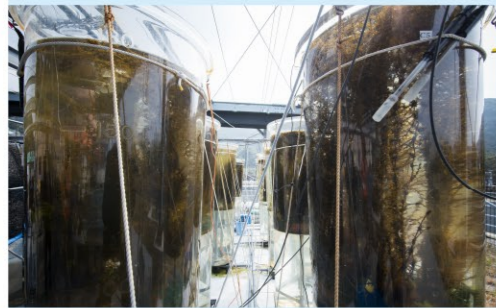
長崎大学では学生の身の回りの環境整備をどのように行っているのでしょうか。学生担当の堀内伊吹副学長にお聞きしました。

「長崎大学では、学生を対象にした生活調査を二年に一度行っており、そこで出た要望や意見が学内環境を改善する大きなカギになります。生協食堂が広くなったり、図書館の開館時間を延長したりという改善も学生の意見がきっかけでした。今年度はサークルセンターの改修や懸案の音楽練習室など、いくつかの計画が動きそうです。せっかく何年も通うのだから、学業だけでなく日常生活も充実してほしい。我々もそのためのバックアップは惜しみません。学生の皆さんは大学の主役。自治や自主の精神で活動してほしいですね」。

学生担当から



堀内伊吹 副学長



二酸化炭素の濃度を変え、海藻と海洋動物を観察する水槽。 海面生質に付む征矢野センター長。

長崎市多良町

環東シナ海 環境資源研究 センター新館

長崎市多良町1551
環東シナ海環境資源研究センター
TEL.095-840-1881
ホームページ
<http://www-mri.fish.nagasaki-u.ac.jp>



国や県、海外の大学とも 手をつなぎ海洋研究を進める

新長崎漁港を臨む長崎市郊外の岸壁に大きな三つの施設が並んでいます。水産総合研究センター西海区水産研究所と長崎県総合水産試験場に挟まれるように真ん中にあるのが長崎大学環東シナ海環境資源研究センターで、水産・環境科学総合研究科の附属施設です。征矢野清センター長にお話を聞きました。

「国と県、大学の臨海施設が一カ所に集中しているのは全国でも長崎だけ。共同研究や実験機材の貸し借り、人的交流なども盛んで、学生にとっても将来のビジョンを描きやすい環境です。センターでは、西海区水産研究所や総合水産試験場ではできない基礎研究を中心に行っています。」
ドライ実験室や魚の飼育施設のある本館に加え、昨年新館ができたこ



目の前の岸壁には長崎丸と鶴洋丸の2艘の練習船が横付けできる抜群の立地。

とで工作室、解析室、セミナー室なども整いました。国内の大学のなかでダントツの充実度です。「海洋資源や環境のフィールド研究は、国境を越えて進めなければ意味がありません。そこで東シナ海を囲む日本（長崎、沖縄）、中国、韓国、台湾の五大学からなる東シナ海海洋学水産科学教育研究コンソーシアムの研究拠点としても機能しています。」
昨年八月からは国の全国共同利用施設にも指定されたセンター。多くの研究者から熱い視線を集めています。



同時通訳端末を備える会議室を有し国際会議も可能です。

1階の会議室はプロジェクターや大型スクリーンの操作をパネルで集中管理。

坂本キャンパスの最奥部 グローバルヘルスの聖地誕生

熱帯医学研究所の隣に二月に完成したこの棟は、熱帯医学、国際保健、ヘルスイノベーションをキーワードとするグローバルヘルス領域の教育・研究拠点です。会議室や講義室、オープンラボのスペースも広く設けられ、熱帯医学研究所とも渡り廊下で結ばれています。浦上天主堂が見渡せる抜群の立地で、最上階にはラウンジもあります。
今年度十月スタートの熱帯医学・グローバルヘルス研究科(関連記事・チャイロ50号P7)や、世界の保健医療でリーダーとなる人材を育成する「リーディング大学院」もこの棟での学びが中心です。グローバルヘルスに関わる学生達が交流しな



がら学べるよう、共有の自習スペースに学生個人用の書架を組み合わせて配置しました。これは新しい取り組みです。海外の機関等とも人的交流があるため、教員も学生も多国籍。そこでお祈りスペースを確保するなど、多文化への配慮も行っています。
ここからグローバルヘルス領域で世界的に活躍できる人材が巣立っていきます。



内外の飼育水槽には、環境影響実験に用いるアカハタやタイラギが。観察は24時間体制のため宿舎も完備。



最上階のラウンジは明るい安らぎの空間。

各教員の研究室と通路の間には秘書のデスクやコピーなど共有機器のスペースを設けた新スタイル。

JICAや国立国際医療研究センターの協力のもと、留学生も含めた学生に国際保健のセミナーも開催。



2016年に完成予定
新中央診療棟

屋上にはヘリポートを装備し、離島やへき地の緊急医療や移植医療にも役立ちます。

地域貢献

機能を向上する
大学病院

県内初のダヴィンチ。現在の保険適用は前立腺がんのみですが、今後は他の領域にも保険適用が広がる可能性があり、ダヴィンチの活躍が期待されています。



3D画像を見ながら多関節で360°動く鉗子で精密な手術を行います。

平成二十八年完成予定の新しい中央診療棟は、十五の手術室が十九室に増え、先行して導入した内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチSii」や、血管造影装置を入れたハイブリッド手術室もお目見えします。

十年計画で進む長崎大学病院の改修ですが、現在、最後の中央診療棟が工事中です。長崎県の医療の中心である大学病院では、工事中も治療を中断することはできません。古い棟を解体する際は、振動を最小限に抑えられるダイヤモンドワイヤソーを使用したので、心臓血管外科や耳鼻科などの手術を続けることができました。

県内初の3D手術ロボットも活躍できる最新手術室がずらり

長崎大学病院

中央診療棟

長崎市坂本1-7-1
問病院企画課
TEL.095-819-7200



その場に行って初めて見えてくることを受け止め、ニーズを探る実習体験。

上／教育学部が川内村小学校で行う「復興子ども教室」の様子。左／村の住民と折田助教。



海外からの研究者を受け入れる最前線の研究拠点としても期待されています。先進的な取り組みで周囲の自治体からもモデルケースとされている川内村。復興の一端を長崎大学が下支えしていく仕組みが構築されています。

東日本大震災以降、長崎大学は特に福島県の復興に向けた動きを支援しています。なかでも双葉郡川内村と強力に連携しており、平成二十五年四月には村内の公民館の一面に「長崎大学川内村復興推進拠点」を設置できました。この拠点を中心に線量測定や住民の健康相談を実施しています（関連記事P15）。常駐する医歯薬学総合研究科の折田真紀子助教のお話です。「村には避難指示解除準備区域がありました。が、昨年十月に規制解除となりました。とはいえ、住民の「本当に大丈夫なのか」という声に応える形で線量測定を継続しています。また、長崎大学の学生の実習やサマープログラムも活発に行われています。今後は他大学の学生のリスクコミュニケーション実習や、日本はもとより海外からの研究者を受け入れる最前線の研究拠点としても期待されています。先進的な取り組みで周囲の自治体からもモデルケースとされている川内村。復興の一端を長崎大学が下支えしていく仕組みが構築されています。

福島県川内村

長崎大学川内村復興推進拠点

福島県双葉郡川内村
大字上川内字小山15-1



復興に向けて共に歩む
最前線の研究拠点

活動支援

就職活動、研究活動の
東京拠点

就活や研究活動の東京拠点として使い勝手よし！ 大学関係者は会議室も借りられます。



東京都港区西新橋

長崎大学東京事務所

東京都港区西新橋1-18-6
クロスオフィス内幸町503
TEL.03-6257-1940
ホームページ
<http://www.nagasaki-u-tokyo.jp/>

入試情報もここで入手可

長崎大学は東京にも事務所を設置しています。昨年、九段下から港区西新橋に移転し、地下鉄の最寄駅から二分という好立地になりました。ここでは主に在校生への就職活動や教職員の研究活動の支援を行っています。アクセシビリティの良さから就活の面接準備やエントリーシートの作成に利用する学生もいます。そのほか、卒業生の交流の場、受験生への大学情報や企業への研究情報の提供といった機能も併せ持ち、大学案内や入試関連情報冊子、広報誌など一連の広報物も入手できます。※来所の場合は事前連絡が必要です。



日常生活から多文化の学生寮がついに誕生
この春からオープンする国際学寮ホルテンシアは、外国人留学生と日常生活を共にすることで言葉の壁をのりこえ、多文化交流のなかで国際感覚を養うことを目的とするもので、国立大学では先進的な取り組みとされています。平成二十七年入学の多文化社会学部の一年生全員が一年間入寮。ユニットは四名でルームシェアし、ユニットに一人以上留学生が入居します。

外国人留学生と混住することで文化の壁を乗り越え、地域とも共生する新しい寮。



留学生寮のある国際交流会館本館から徒歩5分。地域のイベントに参加するなど住民との交流も積極的に行います。

長崎市白鳥町

国際学寮ホルテンシア

長崎市白鳥町8-1
学生支援センター
(学生支援課生活支援班)
TEL.095-819-2103